

西諸県地域の普及活動

令和6年1月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 1月期子牛郡品評会が開催

15日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年1月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には49頭が出品され、審査の結果、優等賞に10頭、壹等賞に25頭、貳等賞に14頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市のTTさん出品の「ゆりあ」号(羅旺45-耕富士-美徳国)、2席と3席は小林市のTKさん出品の「ひかる1393」号(美津秋-耕富士-安福久)、「ひかる1395」号(福晴茂-美徳国-勝平正)が受賞されました。

受賞牛は、発育良好、体積豊かであり、雌牛らしい品位に富んでいたとの講評でした。



【優等賞首席のゆりあ号】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

15日、24日に小林市で就農希望であり、トレーニングセンターできゅうりの研修を受けている夫婦と父親の肉用牛繁殖経営継承による就農相談に対応しました。前者は、令和6年7月就農予定で、農地や施設の確保について関係機関を含め検討しました。後者は、事業の活用に関する検討や就農計画作成に向けた聞き取りを行いました。

今後も、就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：施設きゅうり1名、肉用牛繁殖1名)

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 早生小麦「せときらら」の分けつ肥散布

30日、小林市の小麦生産者のほ場で、早生小麦「せときらら」の分けつ肥散布を行いました。

小麦は栽培中に時期に応じた追肥を給与し、タンパク質含有率を高める必要があります。今回、直進アシスト機能搭載のトラクターにより、効率的かつ高精度に肥料散布を行うことができました。

今後は、安定した品質・収量をとるための穂肥散布量の比較試験を3月に行う予定です。



【分けつ肥散布の様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 加工用ほうれんそうの土づくり講習会

23日に西諸県農業改良普及センターにて、日本土壌協会との共催で加工用ほうれんそうの土づくり講習会を開催し、47名の参加がありました。

日本土壌協会の猪股副会長を講師に、土壌の化学性や物理性に関する基本的な事項が説明された後、ほうれんそうの個別事例についての解説がありました。これからの栽培管理に活かそうと、メモを取りながら真剣に話しに聞き入る参加者の姿が多く見られ、大変有意義な講習会となりました。



【講師による土作りの解説】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAこばやしきゅうり生産部会巡回

22日、JAこばやしきゅうり部会のほ場巡回が行われ、生産者15名が参加しました。始めに、JAこばやしの営農指導員から、2月にかけての温度管理等説明がありました。その後、計4カ所のほ場を巡回し、ほ場の状態を確認しながら、温湿度管理や防除方法など活発な意見交換が行われました。

引き続き、関係機関とともに、今作の収量向上に向けた指導を行っていきます。



【ほ場巡回の様子】

2) JAこばやしきゅうり生産部会視察

24日、県内各JAのきゅうり担当が集まり、JAこばやし管内のきゅうり現地視察が行われました。生産者ほ場を3戸視察し、水管理や病虫害防除等について各産地の状況と併せて意見交換を行いました。

他地区と管内の比較もできて、栽培管理の参考になる貴重な時間となりました。

引き続き、他産地と情報共有しながら、新しい知見など取り入れ、管内のレベルアップを図っていきます。



【視察の様子】

3) JAこばやしきゅうり部会生育調査

1月に入り、毎週木曜日、JAこばやし管内のきゅうりほ場3カ所で生育調査を行っています。

併せて、環境測定機で収集した環境データを分析し、生育調査とデータに基づいた栽培管理の指導を行っています。

今年は暖冬のため、夜温や水の管理が非常に難しい年ではありますが、その中でも収量をとれている生産者の管理を引き続き分析し、技術の横展開を行っています。



【生育調査の様子】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 第6回西諸県地区果樹技術員会・キンカン一斉果実分析

5日、普及センターにて技術員会を開催し、関係機関から9名が参加しました。会議終了後にはキンカン果実の一斉分析を行ったところ、肥大・着色・糖酸度ともに例年と同等の品質でした。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

2) JAこばやしマンゴー部会 園地台帳整理に向けた聞き取り

9日、19日、22日に、JAこばやしマンゴー部会員に対して園地台帳の整理に向けた聞き取りを行いました。内容は、所有する施設等の情報で、今後の産地の生産能力の予測や事業承継などに有効に役立っています。今年度中の完成を目指し、部会員30名中、現在13名の聞き取りが完了しました。

今後も、関係機関と協力し、マンゴー産地の持続的な発展への支援を行っていきます。

3) JAこばやしマンゴー部会 運営委員会

19日、JAこばやし三ヶ野山出張所にて運営委員会が行われ、生産者約8名と関係機関9名が参加しました。会議では出荷前進化に対応するための販売対策等について話し合われ、普及センターからは産地維持のための研修・雇用受け入れ体制案について説明しました。また、会議終了後は情報交換会も開かれ、活発な意見交換が行われました。

今後も、関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産への支援を行います。

4) JAこばやしマンゴー部会 全体研修会

30日、小林市野尻町のマンゴーハウスにて、JAこばやしマンゴー部会の全体定例会が開催され、生産者約30名、関係機関から5名が参加しました。JA担当者から生育概況報告や今後の管理について説明があった後、普及センターからはあざ果症対策や炭酸ガス施用、炭そ病・軸腐病対策について説明しました。また、研修会終了後は情報交換会も開かれ、活発な意見交換が行われました。

2月下旬からの出荷に向けて、引き続き関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産への支援を行います。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) JAこばやしランキュラス研究会 目揃え会

10日、高原町管内のランキュラスほ場にてJAこばやしランキュラス研究会員6名と関係機関の3名で、目揃え会が実施されました。

JAから情勢報告があり、普及センターからは湿度管理等、今後の管理について説明を行いました。

安定的な品質を栽培できるよう、引き続き支援していきます。



【ランキュラス目揃え会】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) JAこばやしいちご部会 害虫防除調査

24日、JAこばやしいちご生産ほ場において、アザミウマ類防除を目的として導入している赤色LEDライトの効果を確認するため、ほ場調査を行いました。現時点でアザミウマ類は確認されていませんが、管内では2月から3月にかけてアザミウマ類による被害が報告されているため、LEDの効果を引き続き調査していきます。



【調査の様子】

2) 調査研究会果樹分科会 現地検討会

26日、西諸県普及センターと小林市野尻町のマンゴーハウスにて、県内農業改良普及指導員の調査研究会果樹分科会の現地検討会を行い、関係機関6名が参加しました。室内検討では今作のマンゴーの炭酸ガス施用計画やデータ分析方法について検討しました。また、令和5年産に炭酸ガス施用を行ったハウスを見学し、状況確認、意見交換を行いました。管内でも少しずつ炭酸ガス施用が広まってきています。

引き続き関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産への支援を行います。

3) キク全体研修会の開催

18日、西諸県管内のほ場及び普及センターにて、宮崎県花き生産者連合会・宮崎県JA花き協議会におけるキク全体研修会が開催されました。県内のキク生産者及び関係機関の40名が参加し、西諸県管内のキクほ場で現地検討、普及センターで安定生産技術などについての室内検討が実施されました。

県内全域の研修及び交流ということで、情報交換が活発にされました。



【キク全体研修会】

4) 第66回宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式

19日、宮日会館にて宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式が開催されました。西諸県管内のキク生産者が法人の花き部門で受賞されました。

受賞者は、これまでの経営の経歴や今後の農業への意欲を持ったあいさつをされました。



【宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式】

5) 西諸県地区花き技術員会第7回定例会

29日、普及センターにて花き技術員会の定例会を開催しました。今後の天候の見通しや情勢報告など情報共有を行った後、営振協展示ほの試験結果など検討を行いました。